









國史綱目一冊子也

皇朝 卷之全



一、兒童發育比較表

(男)

(備考)「印」ハ比較ノ結果劣レルコトヲ示ス。以下皆同シ

年	種別		身	長	體	重	胸	圍	頭	圍
	比較	別								
六	ケ	月	平均三 重縣三 島博 七、五、 六	比較	平均三 重縣三 島博 七、〇、 二五	比較	平均三 重縣三 島博 四一、 九	比較	平均三 重縣三 島博 四二、 二	比較
七	ケ	月	六、七、 六	一、九	七、五、 七	〇、〇、 三七	四二、 八	〇、〇、 二	四三、 六	〇、八
八	ケ	月	六、九、 七	二、五	七、七、 九	〇、〇、 八九	四三、 一	〇、〇、 四	四三、 八	〇、三
九	ケ	月	七、二、 七	二、四	八、一、 九	〇、〇、 一一	四三、 九	〇、〇、 一	四四、 二	〇、二
十	ケ	月	七、〇、 七	一、六	八、〇、 六	〇、〇、 四四	四四、 〇	〇、〇、 四	四四、 〇	〇、二
十一	ケ	月	七、四、 七	一、二	八、五、 二	〇、〇、 三九	四四、 五	〇、〇、 四	四五、 〇	〇、一
一	年	年	七、七、 七	〇、二	八、五、 八	〇、〇、 八三	四五、 六	一、一、 一	四五、 二	〇、二
二	年	年	七、七、 七	〇、八	九、〇、 〇	〇、〇、 六二	四六、 八	—	四七、 一	〇、四



年	事	項	三重縣		三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較
			平均	調査												
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

二、兒童身長体重比較表 (男)

年	種	別	三重縣		三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較	三輪博士 ノ調査	其比較
			平均	調査												
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六

(女)











で、縣下全體の傾向を見るに、（註）が出來ない處のあることは注意せなければならぬ。（註）以下各表に就きて、大體數字の流れを見るに先ち、總兒童數に對する各等級別歩合を見るに、凡そ左の如くなるのである。

總數	入選兒		外		
	同上	歩合	甲	乙	丙
男	一、五四	一八二	五三	四〇	二、〇七
女	一、二四	一三三	三九	三、四	一、〇七
計	二、七八	三一五	九二	三、四	三、一四

即ち優秀なる入選兒童と發育不良なる丙種兒童とは、各一割内外、發育比較的良好なる甲種兒童は三割強、普通兒童(乙)は四割強、約半數を占めて居る。而して此の比率は、男女共に殆んど同一の傾向を示して居るのを見る。此に注意すべきは、入選兒童が總數の一割に過ぎないのは、必ずしも悲觀すべきではないが、丙種の兒童が入選兒よりも多數を占め、乙種兒童が甲種の一倍半に及んで居るのは、縣民の將來を察して、實に憂ふべき現象と言はなければならぬ。尙爾餘の調査表に於て、明瞭に示されるが如く、本縣調査の平均數は、概して三島博士等の調査に比して、數等劣つて居ることを否むことが出來ない。吾々は縣民各位の痛切なる自覺の下に、大に育児法の改善と、一般の體育衛生上の一大革新を圖り、以て次代國民の健康を増進し、國家の盛運を期せねばならぬことを信するのである。

兒童の發育 第一表

本縣兒童は、一般に、身長に於て、他の全國的調査及歐洲に於ける調査に比して、著しく優越して居るに拘らず、其の體重が甚だ低く（附錄第一表、第二表及卷頭圖表參照）、従つて、身長一欄に對する體重が、他の何れの調査と比較しても劣り（附錄第三表及卷頭圖表參照）、且胸圍が常に頭圍よりも小さい（附錄第一表及卷頭圖表參照）。普通初生兒に在りては、胸圍は頭圍より小さいのであるが、既に六箇月以上に達すれば、少くとも兩者は平衡を保ち、滿一年以後は、漸次胸圍の方が大きくならなければならぬのである。然るに、本縣の調査が、或る一二の例外を除いては、殆んど滿二年までを通じて、胸圍の方が小さいのは、甚だ好ましからぬ現象と言はなければならぬ。又身長と體重との關係をエンゲル氏の調査と比較するとき、滿一年までは、歐洲兒童は身長に於て、著しく劣り、體重に於て、大に優つて居るのを見る。エンゲル氏の體重調査は、毎四週間の成績を示されて居るので、之を本縣並他の調査と比較するに當つては、假に四週間を以て、一箇月に充てたのであるが、猶且、附錄第二、三表及卷頭圖表に示すが如き優越なる數字と走線とを表はして居る。以て、歐洲に於ける乳兒死亡率の少ないことの、決して偶然ならざるを知るべきである。

本縣調査中、身長、體重等に於て、往々年長者の平均數字が、年少者のそれよりも劣つて居るといふ現象を見るが、これは前にも述べた如く、同年齡に於ける調査兒童が少數なるが爲に、偶々一二人の極めて發育不良なる兒童ある場合、それが同年齡者の全體に影響を及ぼし、圖表に見るが如き、甚しく不自然なる屈折線を描いて居るのであつて、これは今後多數の兒童を調査するとき、自然に訂正せらるべきものであらう。

第二表



各年齢別の審査の結果を見るに、總計に於て、男児の入選率及甲種の歩合は、女子のそれよりも多く、乙種及丙種の歩合は、女子のそれよりも少く、更に入選者中甲種との歩合の合計数が、乙丙の歩合の合計數に對する割合を見るに、男は八割五分を占めて居るに對し、女は僅かに七割にも足らぬのである。又之を各月に就いて見るも、矢張り男児が女兒に優つて居る月が頗る多いのである。而して審査の標準は、大體全國の男女別標準に就いて、各別に定められたものであるから、本縣調査に於ける男児の成績が、すでに全國のそれに比して、甚しく劣つて居るとすれば、女兒のそれは、男児に比して、更に不良なる状態に在るものと斷言しなければならぬ。これは、女兒體育上極めて注意すべき點だと信ずる。

第三表

生れた月によつて、自ら發育の良否を生ずるのは、必ずしも偶然の結果とは言へない。俗に「夏兒は育ち易い。」と言はれて居るが、本調査に見るも、七、八、九の三箇月に生れたものは、入選兒及甲種の歩合が、他の月のそれに比して、多く、乙種及丙種の歩合は少ない。之に反して、二、三、四の三箇月に生れた兒童は、他の月生れのそれに比して、著しく發育不良なる現象を呈する。これは二三他府縣に於ける學齡兒童に就きて調査した結果に徴するも、矢張り同様の傾向を見るのである。本表によつて、我々は、二月乃至四月に生れた兒童に對しては、育兒上格別の注意を要することを痛切に教へらるるのである。

第四表

出生順位に於ける發育の良否を見るに、二子、三子、四子は入選率多く、丙種兒童は少ない。之に反して、第一子及五子以上に於ては、入選率著しく低下し、反對に丙種の歩合が高い。長子の發育状態の比較

的不良なるは、父母の年齢が若くて、其の體力が充實して居ない上に、育兒上の經驗も智識も乏しい爲に、多くは溺愛の弊に陥り、育兒の方法を誤れる結果であらう。五子以上の兒童が好ましからざる成績を示して居るのは、一面父母の體力の衰耗にも基因するであらうが、兄弟數の多い爲に、自然育兒法が放漫に流れる結果と察せられる。併しながら、所謂「温室育ち」でないだけに、種々の障礙に打勝つだけの體質を有するものは、益々健實なる發育を遂げるものも多からうと思ふ。九子以上の兒童に、優秀兒も、劣等兒も比較的多いのは、或は此の點もあらうと思ふが、由來多産の原因は、一面父母の體質の強健なるにも基因すると共に、又反對に母體の營養が不十分な點に基くことも多い。従つて、其の生れぬ兒童も、夫々父母の體質及營養の良否によつて、優劣を生ずるのであらう。但し八子以上の兒童は、其の審査兒童も少く、殊に九子以上の者は僅に十七名、即ち總數の百五十分の一にも足らぬ數によつて調査したのであるから、必ずしも正鵠を得て居るとは斷せられない。

尙、本調査は、滿二年までの兒童を集めた結果であるから、兒童の大多數は、現在に在りては、末子であつて、出生の順位は即ち彼等の兄弟數を表すものが多い結果、兄弟數による調査の成績は、自然、本表の數字と一致する筈であるから、特に兄弟數による調査表を擧げる必要を認めなかつたのである。

第五表

營養方法別による調査は、入選率も、入選率の丙種の歩合に對する割合も、共に、母乳營養が第一位を占め、混合營養之に次ぎ、人工營養が下位にあるのは、當然の結果と見るべきである。之に反して、丙種の歩合が人工營養兒に多く、混合營養兒、母乳營養兒の順になつて居るのは、實心の事象と言はねばならぬ。



併しながら、慾を言へば、吾々は母乳營養兒の成績が、更に更に優秀なる成績を擧げ得るものと信じて居たのである。而して本調査が、吾々の豫期を裏切つたのは、恵まれたる條件の下に育つ母乳營養兒に在りては、其の家庭が、特別の苦心を拂ふ必要を感じざるが爲に、動もすれば、大膽となり、放漫となる（例へば、授乳の回数や分量が過多となるか、或は、夜間の授乳が多いとか）の弊に陥り易いに反し、人工營養や、混合營養兒に在りては、一般に相當細心の注意を拂はるる結果、比較的優秀なる成績を表はして居るものと察せられるのである。

### 第六表

本表の示す所も、大體第四表出生順位による調査と同様の傾向を示して居る。即ち父母の年齢が三十歳以下の兒童には優秀兒少なく、父が三十一歳乃至四十歳若は四十一歳乃至五十歳にして、母は二十一歳乃至三十歳若は三十一歳乃至四十歳の兒童に優秀兒が多い。唯父二十一歳乃至三十歳に對する母三十一歳乃至四十歳といふ夫婦、及び父三十一歳乃至四十歳に對する母二十歳未満といふ特殊の年齢關係にある兒童が比較的良好的成績を示して居るのは、調査兒童數が極めて少いから、之を以て一般的の事實と見るのは、餘程危険の嫌がある。又父五十一歳乃至六十歳、母四十一歳乃至五十歳といふ老境に近い父母の子が、優秀兒も劣等兒も共に多いのは、第四表に於ける九子以上の例と正に吻合して居るのも面白い事象である。兎に角、吾々は、本表によつて、益々早婚の弊に對する自信を固くすると共に、處女に對する育兒智識の涵養の必要を痛切に感ぜざるを得ないのである。

### 第七表

父の職業別による調査に就いて、之を見るに、公務員及び、公務員會社員以外の自由業に従事する者の兒童に入選率多く、物品販賣業、會社員、農業、水産業等之に次ぐ。公務員、會社員及其の他の自由業者の子が比較的優秀なる地位にあるのは、其の家庭が、育兒に關する觀念に富み、且其の智識経験も多い結果であらう。農家の兒童が入選率は五位に在るに拘らず、丙種の歩合が非常に多いのは、父母の體質は相當良好なるも、恐らくは、育兒觀念の缺如より、育兒の放漫に陥る結果と見るべきではなからうか。會社の職工が入選率に於て甚しく劣り、丙種の歩合に於て、著しく多數を占めて居るのは、父母共に家庭に在ること少い結果であらうと思ふ。今後此の種の職業に従事する者の益々増加せんとする社會の趨勢を察するとき、吾々は慄然として、肌粟を生ずるを禁ずることが出来ない。之を要するに、今回調査の結果を通觀して、比較的不良なる成績を示して居る點に就ては、今後の育兒上特に細心の注意を要することを痛感されるのである。

### 結論

以上、吾々は、本調査によつて、本縣兒童發育狀態は、一般に、決して樂觀を許さない程度に在ることを深刻に教へられたのであるが、今回の本縣の施設を、更に意義あらしめるには、青年處女の體育を鼓吹して、近き將來に於て、子の父母となるべき人々の體位を向上せしむることも、育兒上の教養を豊にすることも必要であらう。妊産婦保護設備、乳兒院、育兒相談所、託兒所、兒童研究所、兒童遊園等の社會的施設は、更に更に其の必要を痛感せられるのである。或は勞働狀態の向上も、生活の改善も、本問題と密接不離の關係にあることも論を俟たない。更に極端に言へば、一部の論者の唱道する「子供國有論」も、「子な



し税、獨身税制定論」も、之を國家的立場より見れば、一面の眞理を有するものとも信するが、究極する所、其の根本に於て、一般社會が、子供に對して、今少しく、正しい尊重愛護の觀念を強くせなければ、百の統計も、千の施設も意義を爲さぬのである。之を要するに、「畫龍點睛」の妙諦は、一に「父母の自覺」に在ることを痛感する。

瓜食めは 子とも思ほゆ 栗食めは まして俵ばゆ  
何處より 來りしものか 目なかひに もとな懸りて  
安眠しなさぬ

白銀も資金も玉も何せんに勝れる實子にしかめやも

山上 億良

人の親の必は開にあらねども子を思ふ道に迷ひぬるかな

藤原の自覺

昭和二年七月二十日印刷  
昭和二年七月二十五日發行

(非賣品)

### 三重縣學務部社會課

、三重縣津市榮町六十四番屋敷

印刷人 米澤梅之助

三重縣津市下部田二、六一九番ノ二

印刷所 三重縣印刷所



308  
583



明臨河 三重縣明臨河  
三重縣明市下流田二六一八番ノ二

明臨人 米野耕之助

三重縣明市下流田六十四番ノ一

三重縣專務局會票

明臨二平小田二十五日發行

明臨二平小田二十日發行

(非賣品)



